

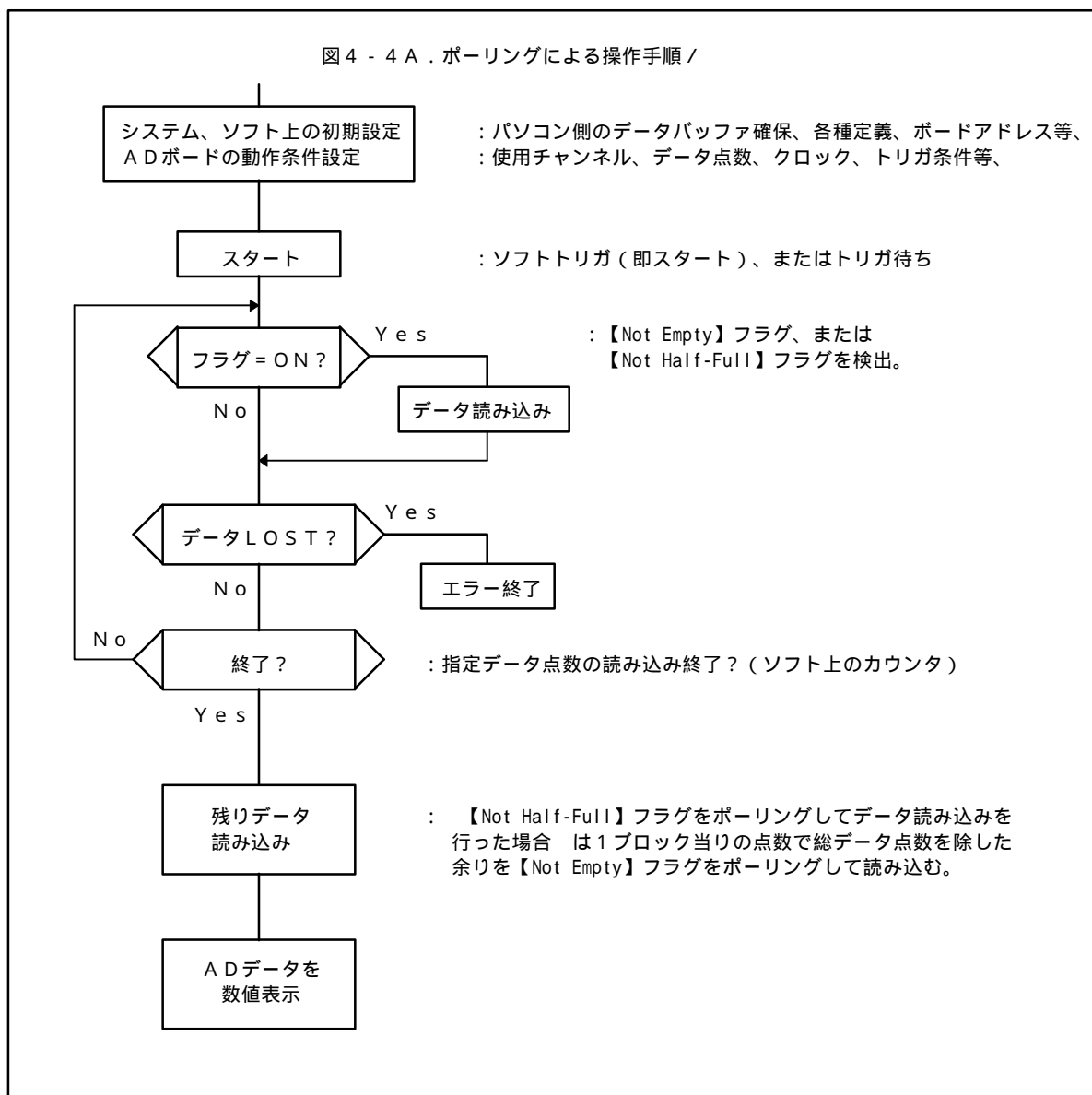
4-4. Cのサンプル

一般的な応用場面では基本機能・動作が関数化されたCハンドラ（LIB / 第5章）の利用が便利です。本項ではADボードのドライバを自作するユーザ向けの操作手順学習用サンプルについて記します。

POL65 E1.C
POL65 H1.C
BLK65 H1.C

は【Not Empty】フラグを監視して1語ずつ、
は【Not Half-Full】フラグを監視してFIFOメモリ容量の
半分（標準:2048語）単位で通常のIN命令でデータを読み込む。
は【Not Half-Full】フラグを監視してFIFOメモリ容量の
半分（標準:2048語）単位でブロック転送命令（INSW / INSB）を
使用してデータを読み込む。 / 最高速の方法です。 /

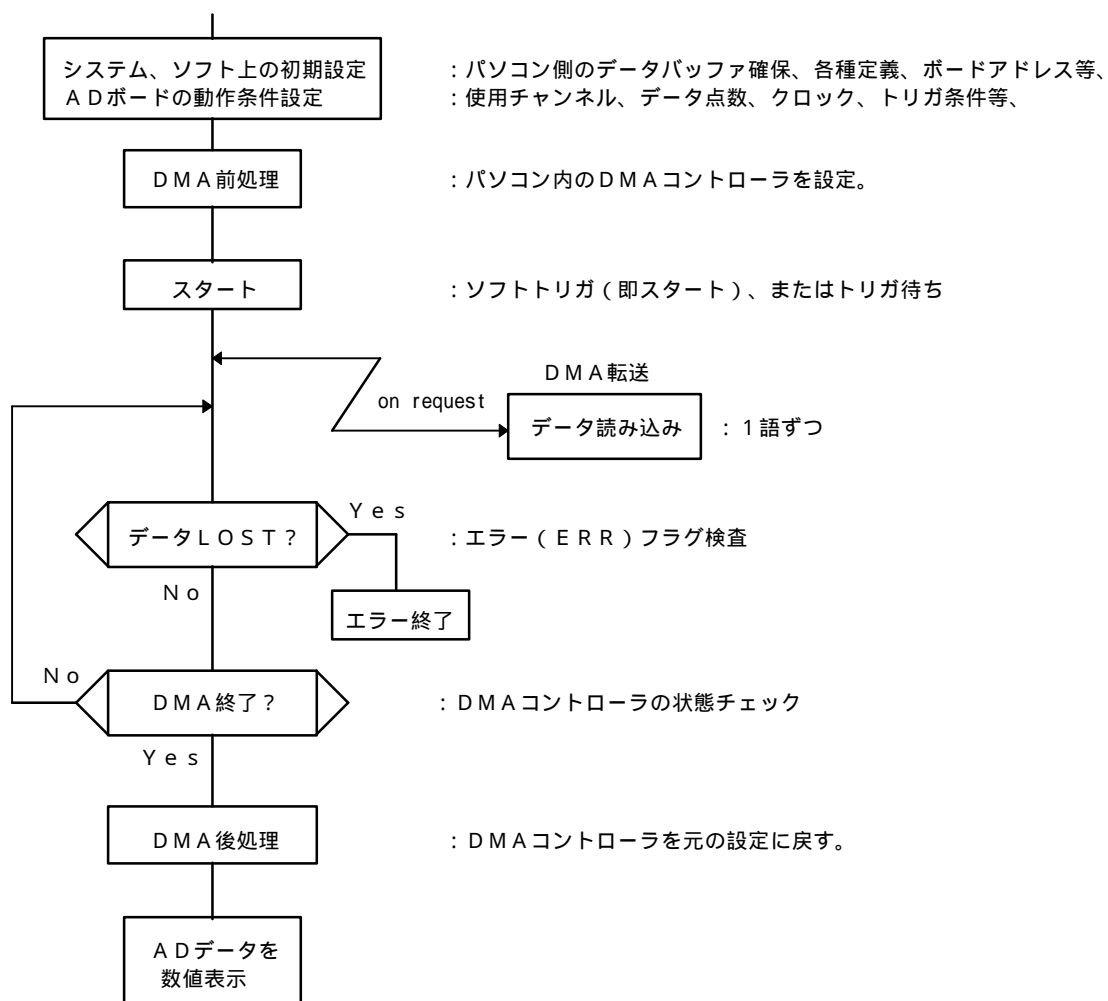
図4-4A. ポーリングによる操作手順 /



DMA65 E1.C

【Not Empty】状態によるDMA要求で、
ADデータを1語ずつDMA転送する。

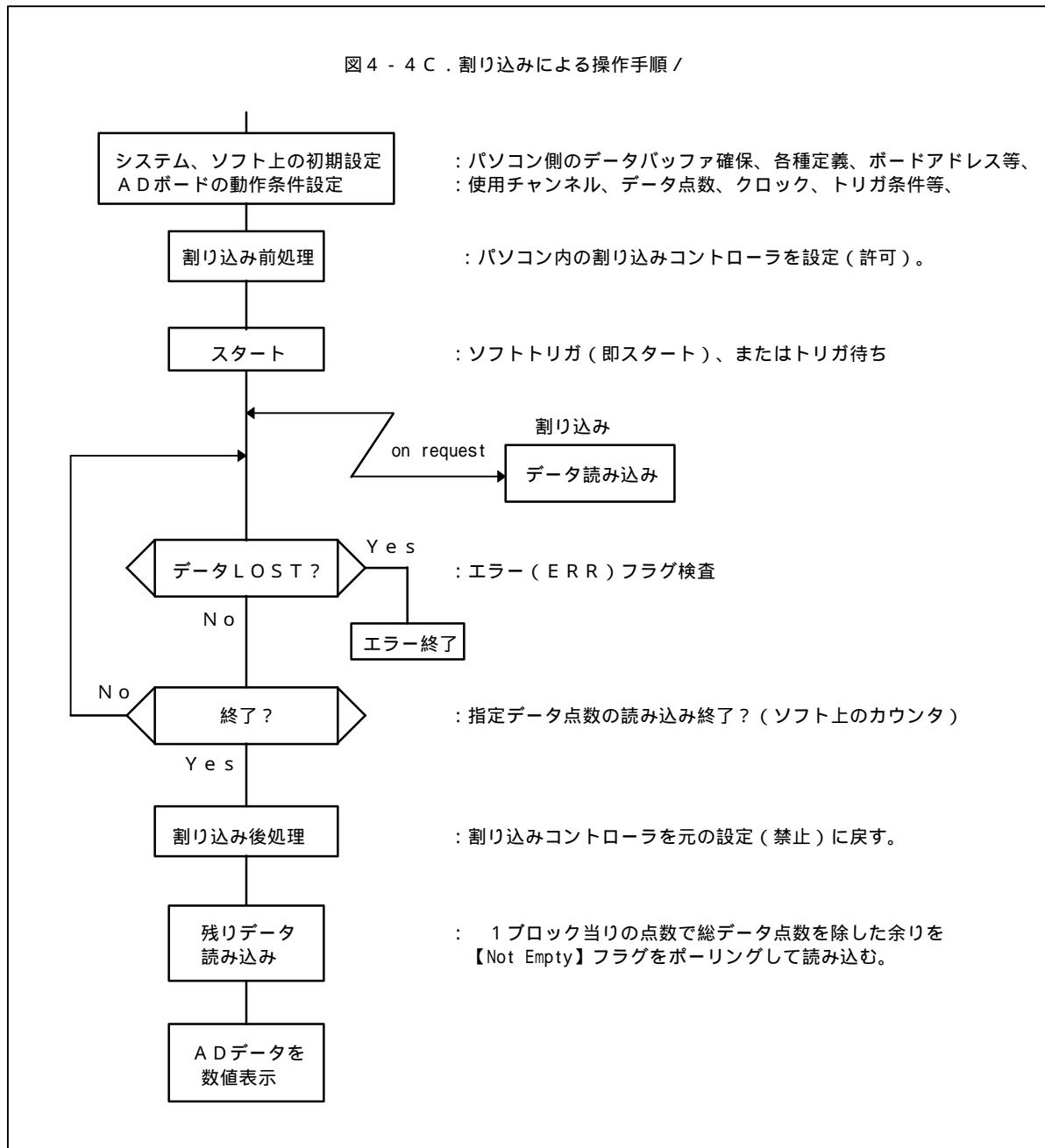
図4-4B.DMAによる操作手順／



INT65 E1.C
INT65 H1.C

は【Not Empty】状態による割り込みで1語ずつ、
は【Not Half-Full】状態による割り込みでFIFOメモリ
容量の半分（標準:2048語）単位でデータを読み込む。

図4 - 4 C . 割り込みによる操作手順 /



MSV65 H1.C

複数の本ボードを並列に同期運転するマスタスレーブ操作例。
各スレーブ機はマスタ機からのクロック出力を受けて、外部
クロック・モードで動作させる。トリガの検出やステータス
フラグの参照はマスタ機で行う。ハードウェアの制限により
スレーブ機の最大数は7枚。

図4-4D. マスタスレーブ動作の操作手順 /

